令和５年度　第３回水戸市スポーツ推進審議会　次第

日時　令和６年３月 13 日（水）
　　午後２時 00 分から
場所　水戸市役所４階
　　中会議室４

１　開　　会

２　あいさつ

３　議　　題

（１）水戸市スポーツ推進計画（第２次）素案について

４　閉　　会

【配布資料】

１　令和５年度第３回水戸市スポーツ推進審議会次第（本紙）

２　水戸市スポーツ推進計画（第２次）素案

水戸市スポーツ推進計画（第２次）

～　いつでも　どこでも　だれでも　いつまでも　～
スポーツを楽しめるまち　水戸

（素案）

水　戸　市

目　　次

第１章　計画策定の基本的事項

1　計画策定の趣旨 …… 1
2　計画の位置付け …… 2
3　計画の期間 …… 3
4　計画における「スポーツ」の捉え方 …… 4

第２章　計画策定の背景

1　市民の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査結果からの分析 …… 5

第３章　計画の基本的方向

1　目指す姿 …… 14
2　基本方針 …… 15
3　施策の体系 …… 17

第４章　施策の展開

基本方針１　生涯スポーツ活動の推進 …… 18

基本施策１　こどもの運動遊びの推進 …… 18
基本施策２　小・中学生のスポーツ活動の推進 …… 21
基本施策３　成人のスポーツ活動の推進 …… 23
基本施策４　高齢者のスポーツ活動の推進 …… 27
基本施策５　全てのライフステージを含むスポーツ活動の推進 …… 28
基本施策６　障害者のスポーツ活動の推進 …… 31

基本方針２　競技スポーツの振興 …… 32

基本施策１　競技力の向上 …… 32
基本施策２　スポーツ施設等の整備・活用 …… 36
基本施策３　競技団体の体制維持・強化 …… 39

基本方針３　スポーツを生かしたまちづくりの推進…………………………………… 40
基本施策１　プロスポーツチームとの連携・協働の推進………………………… 40
基本施策２　水戸黄門漫遊マラソンの推進…………………………………………… 44
基本施策３　全国大会等の誘致・開催支援…………………………………………… 46
基本施策４　伝統スポーツの支援……………………………………………………… 47

第５章　推進体制と進行管理

1　各推進主体の役割…………………………………………………………………… 49
2　進行管理……………………………………………………………………………… 51

資料編

水戸市スポーツ推進体制………………………………………………………………
水戸市スポーツ施設一覧………………………………………………………………
市民の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査結果…………………………
スポーツ基本法（平成23年法律第78号）……………………………………………
水戸市スポーツ推進審議会条例………………………………………………………
水戸市スポーツ推進審議会名簿………………………………………………………
水戸市スポーツ推進計画策定に係る経過の概要……………………………………

第1章　計画策定の基本的事項

1　計画策定の趣旨

スポーツは，人生をより充実したものとするとともに，人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の文化であり，明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達，ウェルビーイングに必要不可欠なものです。したがって，人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは，極めて大きな意義を有しています。

日本の人口減少が今後更に進み，スポーツに参画する者やそれを支える担い手が不足することが見込まれる中，スポーツ・運動環境を維持することが困難になり，地域間格差の拡大にもつながることが考えられます。そのため，あらゆる世代において，スポーツをする機会を維持することが必要であり，スポーツを活用した健康増進や地方創生の取組にも大きな期待が集まっています。

国においては，2011（平成 23）年にスポーツ基本法を制定し，2022（令和４）年３月には，同法に位置付けられたスポーツ基本計画の第３期が策定されました。この計画では，スポーツで「あつまり」，「ともに」行い，「つながり」を感じるなどの新たな視点を盛り込み，今後取り組むべきスポーツ施策と目標を定めています。

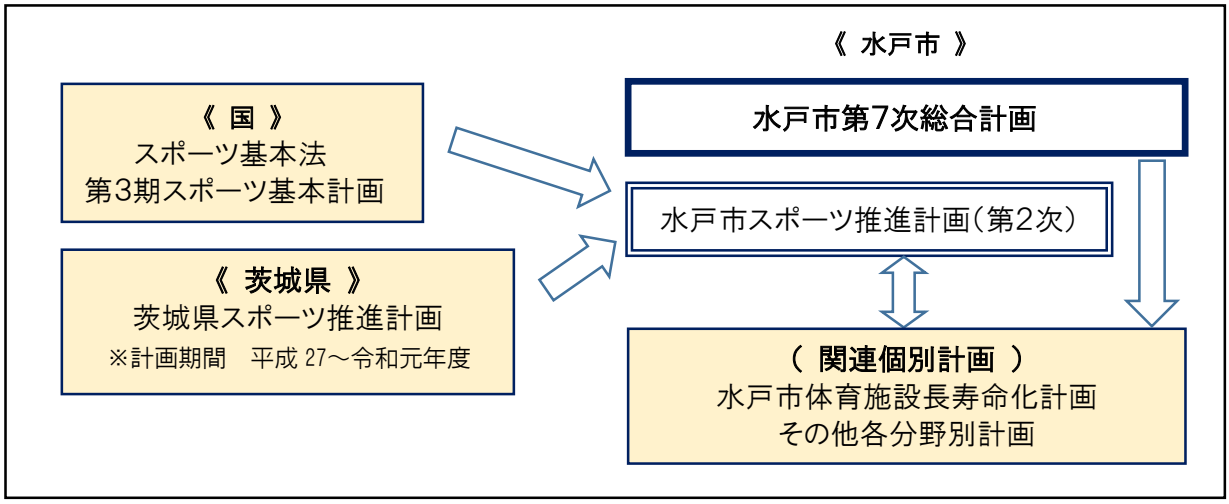
本市においては，これまで同法の定めによるスポーツ基本計画を踏まえ，「その地方の実情に即したスポーツの推進」に関する計画として，水戸市スポーツ推進計画（以下「第１次計画」という。）を策定し，あらゆる世代の市民がスポーツに親しみ，楽しむことができる生涯スポーツの推進に取り組んできました。

水戸市スポーツ推進計画（第２次）（以下「本計画」という。）は，第１次計画の成果を踏まえ，本市が有するスポーツ資源等を生かしつつ，住民の生活や行政を取り巻く環境の変化に対応していくため，国の方針やＳＤＧｓの理念を踏まえるとともに，水戸市第７次総合計画や関連個別計画との整合性を図りながら策定するものです。

２　計画の位置付け

本計画は，本市の上位計画である水戸市第７次総合計画の関連個別計画のひとつとして，他の分野別計画と連携するとともに，国の第３期スポーツ基本計画や茨城県スポーツ推進計画との整合性を図りながら，スポーツ振興施策を総合的に推進するための指針として位置付けます。

本計画の位置付け



また，本計画は，ＳＤＧｓが示す 17 のゴールのうち，「３　すべての人に健康と福祉を」，「４　質の高い教育をみんなに」，「17　パートナーシップで目標を達成しよう」の目標達成に資する取組として位置づけられています。

３　計画の期間

本市の上位計画である水戸市第７次総合計画の計画期間にあわせ，2024（令和６）年度から 2028（令和 10）年度までの５年間とします。ただし，社会環境の変化等に伴い，必要に応じて計画の見直しを行います。

年度	2023 （令和5）	2024 （令和6）	2025 （令和7）	2026 （令和8）	2027 （令和9）	2028 （令和10）	2029 （令和11）
水戸市第6次総合計画 （期間：2014～2023年度）							
水戸市第7次総合計画							
水戸市スポーツ推進計画 （期間：2016～2023年度）							
水戸市スポーツ推進計画 （第2次）							

4　計画における「スポーツ」の捉え方

スポーツとは本来，技（ワザ）の競争を楽しむ身体運動のことです。

スポーツ基本法では，スポーツは人類共通の文化であり，国民の幸福で豊かな生活に資するものとして定義されています。本市においては，スポーツの概念をこどもの運動遊び，青少年の競技スポーツ，成人や高齢者の気軽な健康運動・レクリエーション，障害者スポーツ，アスリート・プロスポーツなどの全ての身体活動を含むものとして幅広く捉えています。

その中でも，市民のライフステージに応じたスポーツによる楽しさ・おもしろさ，こころとからだの健康や成長，仲間との交流などを目指した「いつでも，どこでも，だれでも，いつまでも」行えるみんなのスポーツを「生涯スポーツ」として捉えます。

一方，スポーツマンシップやフェアプレイの精神を持ち，ルールに基づいて互いの身体的技能を競争し，勝利を目指して努力し合う高度なスポーツを「競技スポーツ」として捉えます。

また，スポーツには，「する」だけではなく，「みる」「ささえる」などの多元的な参加の仕方があり，地域内外の人々の交流や集い・にぎわいを創出します。特に，本市ならではの伝統スポーツやプロスポーツに市民が親しむことは，地域への愛着を持つきっかけとなることから，教育・文化的効果や経済的効果を含めた様々な「まちづくり」に貢献するものとして捉えます。

第2章　計画策定の背景

1　市民の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査結果からの分析

本計画策定の基礎資料とするため，令和５年９月に 18 歳以上の水戸市民を対象に「市民の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査」を実施しました。なお，18 歳～19 歳の調査データについては，他の年齢層と比べて調査数が極端に少ないことから，あくまで参考値として掲載しています。

○市民の運動・スポーツ活動に関するアンケート調査結果

調査対象者	18 歳以上の市民で，年齢層別・男女別に人口割合で無差別に抽出した 1,000 人
調査方法	郵送による配布，回収（郵送調査）
調査期間	2023（令和5）年９月 ※前回 2015 年（平成 27 年）１月～2月
回答数	419 件（回答率 41.9%） ※前回 476 件（回答率 47.6%）

年齢層	回答数	割合
１８～１９歳	6	1.4 %
２０～２９歳	36	8.6 %
３０～３９歳	43	10.3 %
４０～４９歳	73	17.4 %
５０～５９歳	70	16.7 %
６０～６９歳	69	16.5 %
７０～７９歳	71	16.9 %
８０歳以上	51	12.2 %
合計	419	100.0 %

１　運動・スポーツへの関心について（問４）

「するスポーツ」及び「ささえるスポーツ」への関心がある割合は，「大いにある」「まあまあある」合わせてそれぞれ 72.7%，17.5%で，前回調査の 73.8%，22.7%

からそれぞれ 1.1 ポイント，5.2 ポイント下がっています。一方，「みるスポーツ」への関心は 79.6%で，前回調査の 77.9%から 1.7 ポイント上がっています。また，「するスポーツ」「みるスポーツ」については，市民の７割以上が関心があるのに対して，「ささえるスポーツ」について関心のある市民の割合は，２割に満たないことがわかります。

運動・スポーツへの関心について（前回調査との比較）

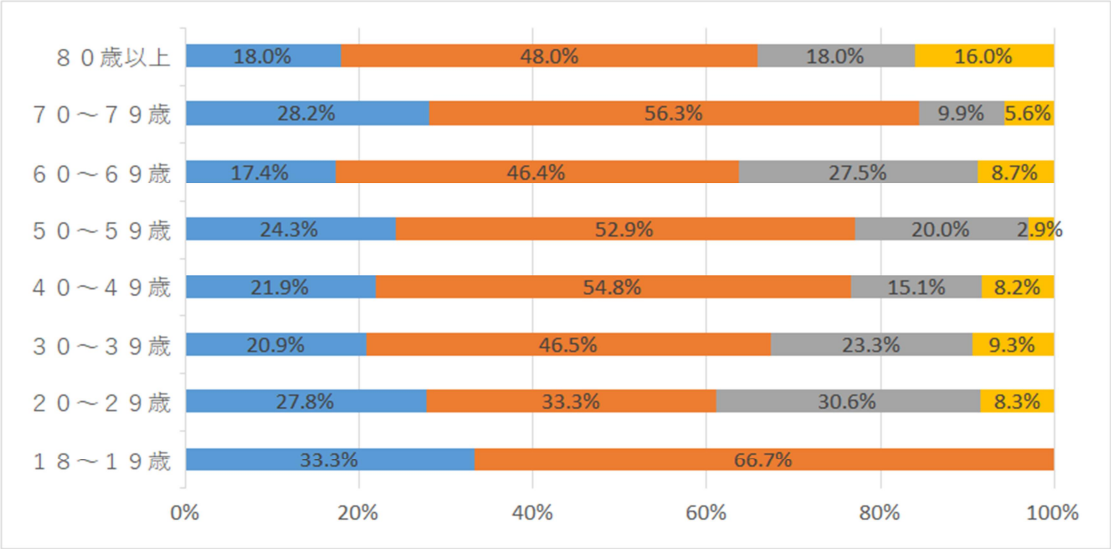
	するスポーツ		みるスポーツ		ささえるスポーツ	
年度	2023（令和 5）	2015（平成 27）	2023（令和 5）	2015（平成 27）	2023（令和 5）	2015（平成 27）
大いにある	22.7 %	24.4 %	28.2 %	27.7 %	2.4 %	3.8 %
まあまあある	50.0 %	49.4 %	51.4 %	50.2 %	15.1 %	18.9 %
ほとんどない	19.4 %	18.0 %	16.5 %	17.5 %	31.6 %	32.3 %
全くない	7.9 %	8.0 %	3.8 %	4.6 %	51.0 %	45.0 %
不明	0.0 %	0.2 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %

年齢層別にみる関心の高さの比較では，「するスポーツ」は，年代が上がるごとに上昇し，70 歳代でピークを迎えますが，60 歳代でいったん落ち込んでいます。

「みるスポーツ」は，年代が上がるごとに上昇する傾向ですが，「ささえるスポーツ」は，20 歳代から 50 歳代が比較的高いなかで，30 歳代は低くなっています。

これらの原因については，問 9 で改めて説明します。

年代別の「する」スポーツへの関心について

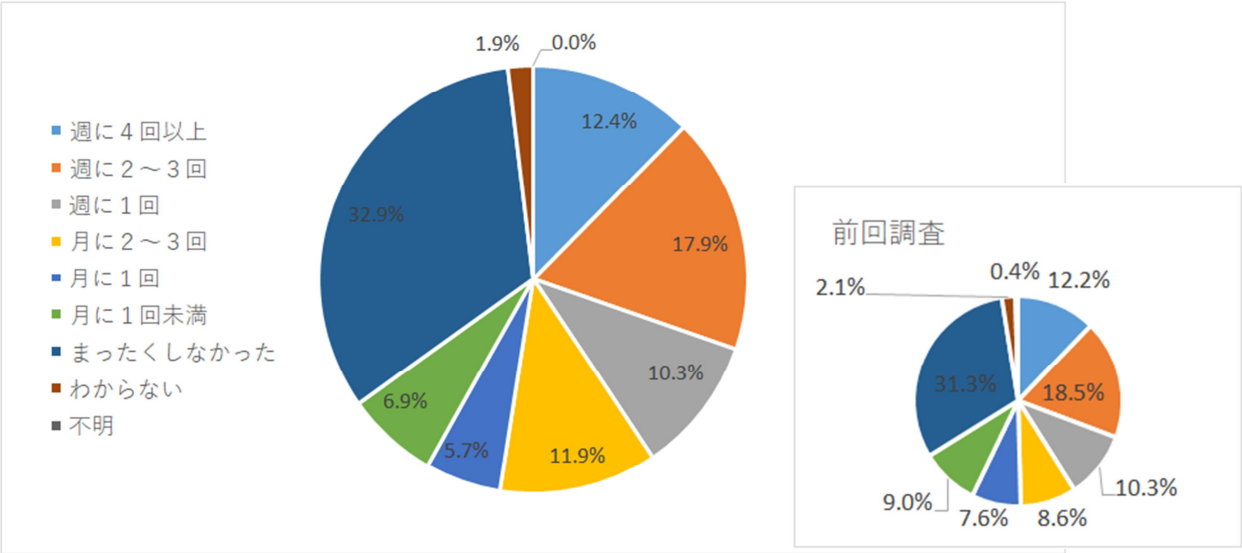


２　運動・スポーツの実施状況について

①　スポーツ実施率（問５・問６）

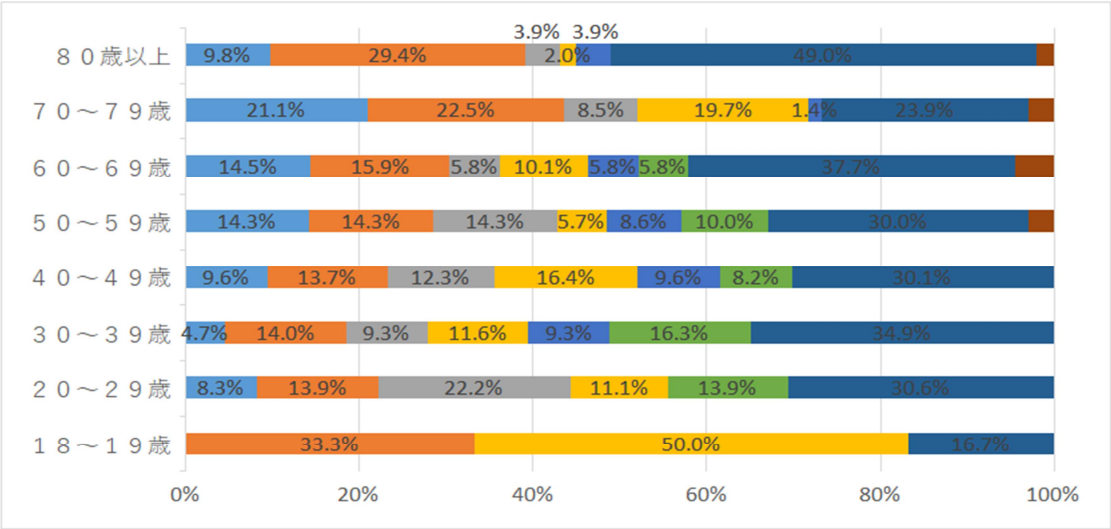
成人の週１回以上のスポーツ実施率は 40.6%で，前回調査の 41.0%から 0.4 ポイント下がっています。一方で，「まったくしなかった」の割合は 32.9%で，前回調査の 31.3%から 1.6 ポイント上がり，実施頻度において若干の低下がみられます。

スポーツの実施率



年齢層別にみると，30 歳代の実施率が一番低くなっており，高齢世代ほど実施率が高くなる傾向がみられます。

年齢別のスポーツの実施率



具体的な種目については，前回調査同様に「ウォーキング・散歩」「筋力トレーニング」「体操」が多くなっています。その他，「ヨガ」「ストレッチ」といった屋内でひとりで行える運動・スポーツをする人が特に女性で増えており，新型コロナウイルス感染症の影響により，ライフスタイルが変化したことが考えられます。

② スポーツを行う理由（問７）

「体力づくりのため」が 30.6%と高く，以下「楽しみとして」「美容・健康のため」「友人との交流として」が続きます。

年齢層別では，年代が上がるほど「友人との交流として」が増加傾向にあります。

少数意見では，「スマホアプリのため」や「ペットのため」などがみられ，スポーツ単独ではなく，他の趣味やライフスタイルに組み込むことにより運動・スポーツの習慣化につながりうることを示しています。

③ スポーツを行う場所（問８）

「公園など屋外」が 31.3%と高く，以下「自宅など屋内」「民間スポーツ施設」「公共の体育施設」「市民センターなど」と続いています。

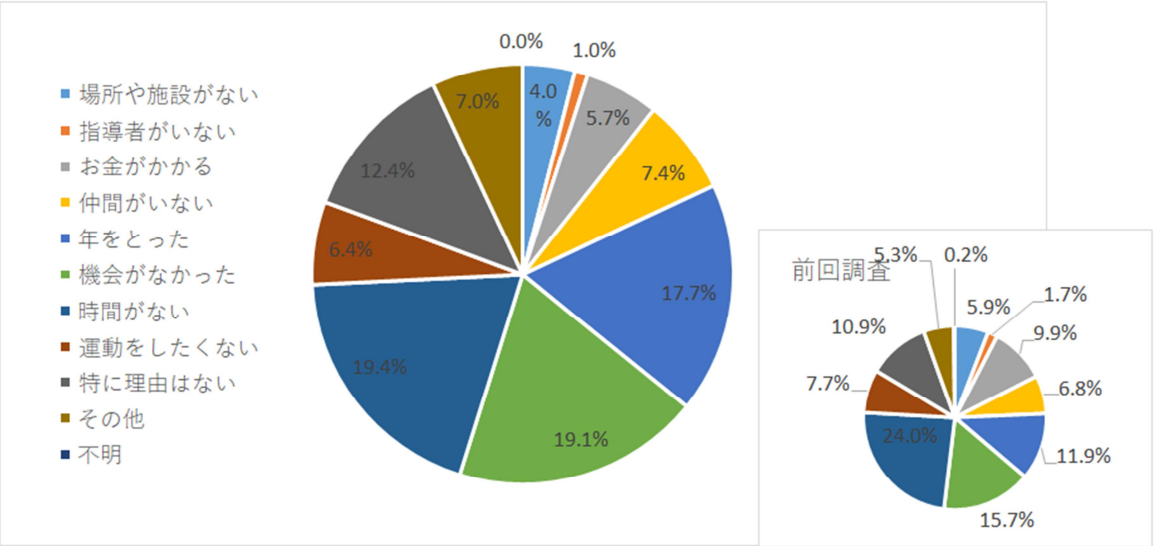
年齢層別では，年代が上がるほど「市民センターなど」が増加傾向にあります。

少数意見としては，「ゴルフ場」「病院，デイサービス施設内」「内原イオンモール内」などがみられ，前述したスポーツを行う理由と同様に，他のライフスタイルに組み込むことで運動・スポーツの習慣化につながる可能性を示しています。また，天候に左右されずに行える場所に対するニーズも高いことがわかります。

④ スポーツをしない理由（問９）

過去１年間にスポーツを「まったくしなかった」という回答者に対して理由を聞いたところ，多い順に「時間がない」が 19.4%，「機会がなかった」が 19.1%，「年をとった」が 17.7%と続きました。

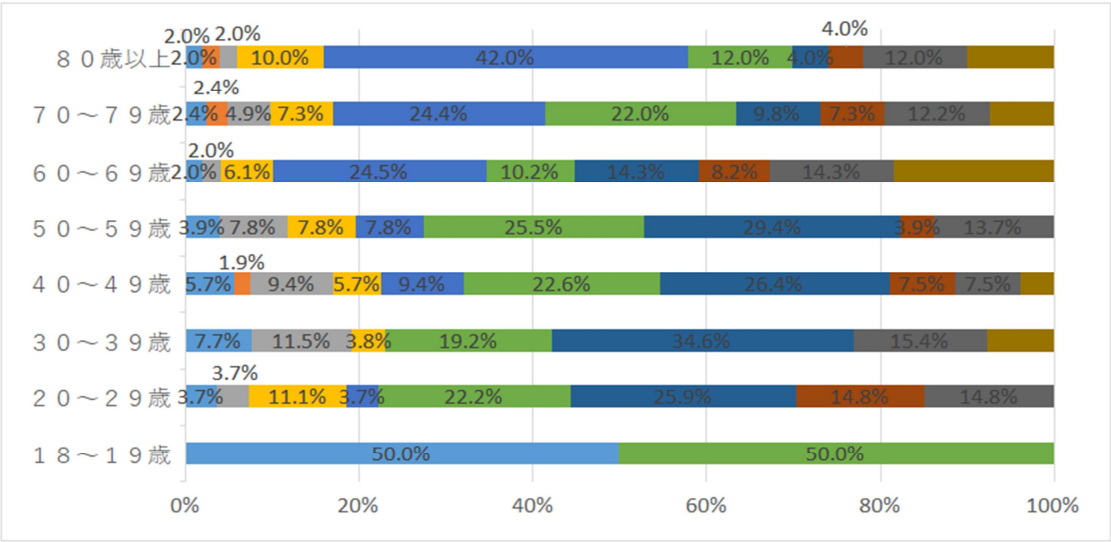
スポーツをしない理由



年齢層別で見ると，子育て世代や働き世代の中心となる 30 歳代の前後では「時間がない」との回答が多く，この年齢層のスポーツ実施率を高めるためには，短時間や隙間時間で取り組める運動に関する情報提供が必要であると考えられます。

また，「年をとった」との回答を見ると，60 歳代で人生の大きな転機を迎える人が多いことから，50 歳代の 7.8%から，60 歳代では 24.5%へと 3 倍以上に急増しており，60 歳以上の人々とスポーツとを繋ぐ取組が重要となっています。

年齢別のスポーツをしない理由



３　みるスポーツ・ささえるスポーツについて

①　「みるスポーツ」（問 10～問 12）

普段，スポーツをみる人の割合は 79.7%で，スポーツをみる方法については「テレビで」と回答した人の割合が 77.7%，「スタジアムなどで」が 17.0%となっています。

年齢層別では，30 歳代と 50 歳代で「スタジアムなどで」観戦した人の割合が，比較的高くなっています。30 歳代での「スタジアムなどで」観戦した人が多い理由としては，子ども向けの無料観戦事業（水戸ホーリーホック『キッズパスポート』，茨城ロボッツ『キッズパス』，茨城アストロプラネッツ『夢チケット』等）が影響しているものと考えられます。

また今後，機会があれば会場に行って実際に観戦したいと思うスポーツについての質問では，「バスケットボール」「サッカー」「野球」との回答が約６割を占めました。これは，身近なプロスポーツクラブの存在によるものと考えられます。

②　「ささえるスポーツ」（問 13～問 15）

過去１年間にスポーツボランティアとして「たずさわったことがない」割合は 91.2%で，前回調査の 85.9%から 5.3 ポイント増加しています。また今後，スポーツボランティア活動を行いたいと思うかについての質問では，「思わない」と回答した割合は 76.9%で，前回調査 73.9%から 3.0 ポイント増加しています。

これらは，ここ数年のスポーツイベントの中止や無観客開催等が，ボランティア参加の機会や意欲にも影響を与えたものと考えられます。

「ボランティアをしたいと思わなかった」という回答者に対して理由を聞いたところ，「時間がない」との回答が最も多く，次いで「高齢のため」「体力がない」「体の具合がよくない」「興味がない」「自分を優先したい」と続いています。

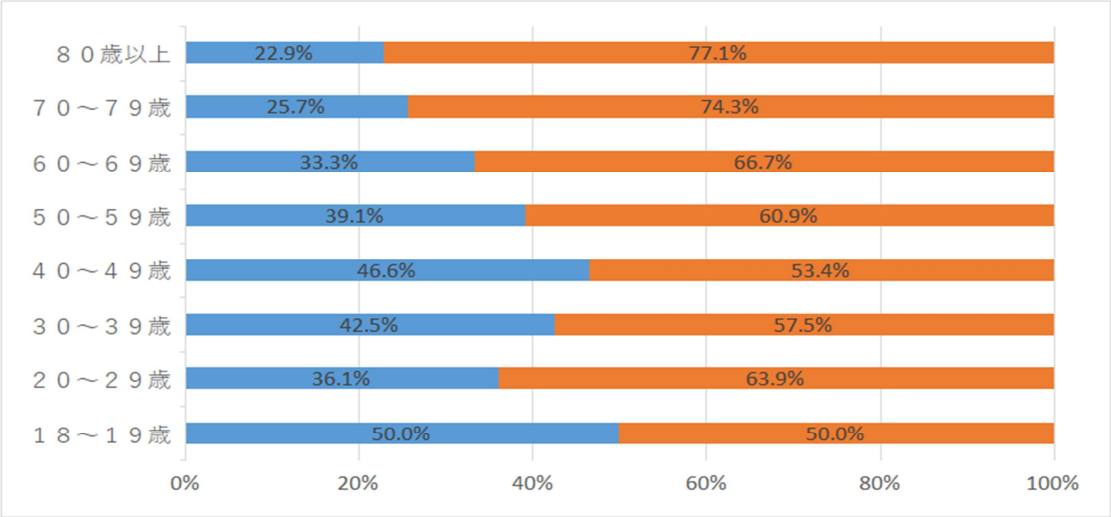
年齢層別の傾向としては，若い世代では「時間がない」と回答する人が多く，年代が上がるほど「高齢のため」「体力がない」「体の具合がよくない」と回答する人が多くいました。

少数意見ではありますが，「活動内容がわからない」や「きっかけがない」といった回答があり，スポーツボランティアの活動内容の周知やきっかけづくりによって，参加する人を増やす余地はあると考えられます。

４　地域のプロスポーツクラブについて（問 16～問 18）

これまでに地域のプロスポーツクラブの試合を「観戦したことがある」割合は 35.5%で，年齢層別では 40 歳代がピークとなっています。ただし，この調査は 18 歳以上を対象として実施したことから，青少年を含めると，実際には，もっと高い割合の市民が観戦していると推察されます。

年齢別の地域のプロスポーツクラブの試合を観戦したことがある割合



「観戦したことがある」と回答した人にどのクラブの試合を観戦したか聞いたところ，「水戸ホーリーホック」と回答した人が 51.7%，「茨城ロボッツ」と回答した人が 26.8%，「茨城アストロプラネッツ」が 5.4%，「マルバ水戸ＦＣ」が 2.4%となり，ホームタウンとして長年親しまれているクラブほど，応援する機運が高いことが分かります。

また今後，地域のプロスポーツクラブを盛り上げていくうえで重要だと思うことを質問したところ，「ＰＲの強化」が最も多く，次いで「クラブの強化」「選手との交流イベントの開催」「地域とのつながりの強化」「入場料の補助，無料化」の順でした。

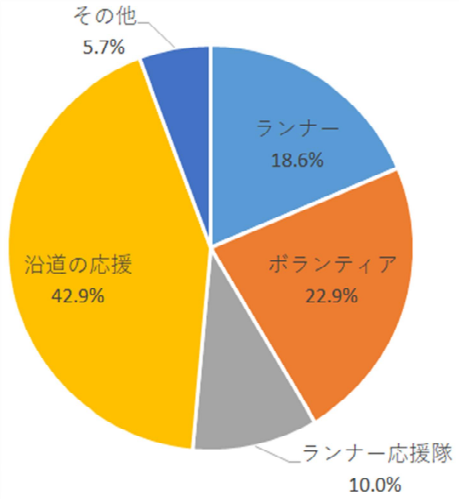
行政に対策を求める意見としては，「施設の整備」「駐車場の整備」「交通手段の整備」といった主にハード面での整備が挙げられ，クラブと行政の両方に対策を求める意見としては，「ＰＲの強化」や「地域・企業等との連携」といったソフト事業が挙げられました。特に「ＰＲの強化」については，イベントや入場優待，学校訪問等，すでに実施している事業を認知してもらうための取組が重要であることがわかります。

５　水戸黄門漫遊マラソンについて（問 19～問 21）

これまでに水戸黄門漫遊マラソンに「参加したことがある」割合は 13.9%で，年齢層別では 20 歳代が多くなっています。参加形態については，「沿道の応援」が 42.9%で最も多く，次いで「ボランティア」22.9%，「ランナー」18.6%，「ランナー応援隊」10.0%の順でした。

よりランナーから選ばれる大会にするためには何が重要かを聞いたところ，「PR，広報の強化」「走りやすいコース変更」「有名ゲストランナー，招待ランナーの充実」と回答する人が多くいました。コースをはじめコンテンツについて，過去に参加した人やこれから参加したいと思っている人の意見を参考に内容に磨き上げていくこと，また，それらの成果をきちんと発信する動きが，今後よりたくさんの人を水戸黄門漫遊マラソンに取り込むうえで重要であることがわかります。

水戸黄門漫遊マラソンへの参加割合



6　スポーツ振興に関して本市に求めるもの（問 22）

本市のスポーツ振興において今後力を入れて取り組むべきことを聞いたところ，「施設の整備」が最も多く，次いで「ＰＲの強化」「イベントの開催」「スポーツ教室の開催」「施設利用条件の改善」の順でした。「施設の整備」では，公園やスタジアム（駐車場整備も含む）等の新設や，ウォーキングコースや遊具等の改修が求められています。「ＰＲの強化」では，施設利用の案内からイベント・試合開催の案内まであらゆる情報をわかりやすく発信することが求められています。その他「イベントの開催」「スポーツ教室の開催」では，各年齢層やライフスタイルなどにあわせた事業の推進が求められています。

少数意見としては，「託児サービスの導入」「健康増進のための助成」「運動ポイントアプリの利用促進」などがありました。

7　スポーツ施設について（問 23～問 30）

市内にある公共スポーツ施設を利用したことがある人の割合は 47.0%で，前回調査 47.5%とほぼ同じでした。一方，市内にある民間スポーツ施設を利用したことがある人の割合は 35.0%で，前回調査 38.9%から 3.9 ポイント低下しています。

年齢層別にみると，公共・民間スポーツ施設ともに 30 歳代で低くなってはいるものの，20 歳代から 50 歳代の世代で利用率が高く，それ以上の世代で低くなる傾向がみられます。

市内にあるスポーツ施設を「利用したことがある」と回答した人に満足度を聞いたところ，「満足している」「やや満足している」合わせて公共スポーツ施設で 76.3%，民間スポーツ施設で 76.8%となっており，前回調査の 61.0%および 63.8%からそれぞれ 15.3 ポイント，13.0 ポイントと大幅に上昇しています。これは，アダストリアみとアリーナや下入野健康増進センターなどの公共スポーツ施設の整備や，手軽に通える民間スポーツ施設が市内に増えたことによるものと考えられます。

スポーツ施設利用者の満足度（前回調査との比較）

	公共施設		民間施設	
年度	2023(令和５)	2015(平成 27)	2023(令和５)	2015(平成 27)
満足している	24.2 %	10.1 %	21.7 %	19.1 %
やや満足している	52.1 %	50.9 %	55.1 %	44.7 %
やや不満である	21.1 %	21.6 %	18.1 %	18.7 %
不満である	2.6 %	11.8 %	5.1 %	12.2 %
不明	0.0 %	5.6 %	0.0 %	5.3 %

第3章　計画の基本的方向

1　目指す姿

本市が 2020（令和２）年４月１日に宣言した「元気な明日を目指す健康都市」を踏まえつつ，引き続き，「**いつでも　どこでも　だれでも　いつまでも　スポーツを楽しめるまち・水戸**」の実現を目指します。

目指す姿

いつでも　どこでも　だれでも　いつまでも

スポーツを楽しめるまち・水戸

２　基本方針

「目指す姿」の実現に向け，次の３つの基本方針を掲げ，様々な施策に取り組みます。

施策の展開に当たっては，市民自らがスポーツ活動を行う「するスポーツ」に加えて，トップレベルの競技大会等の観戦や応援を通してスポーツにふれる「みるスポーツ」，そして，スポーツ指導者やボランティアなどのスポーツ活動をサポートする「ささえるスポーツ」の充実を図り，スポーツ文化を一層進展させ，あらゆる世代の市民が「いつでも，どこでも，だれでも，いつまでも」スポーツに親しみ，スポーツを楽しむことができる生涯スポーツ社会の実現を目指します。

１ 生涯スポーツ活動の推進 （SDGs：3，4）

ライフスタイルの変化や健康志向の高まりなどによる多様なニーズを反映した魅力あるスポーツイベントの開催や，スポーツ推進委員との協働による市民スポーツ大会をはじめとする地域でのスポーツ活動の推進により，年齢や性別，障害の有無等にとらわれず，生涯にわたって自分の健康や体力に応じた運動やスポーツに親しめる機会を創出します。

また，こども，成人，高齢者といった各ライフステージに応じたスポーツ活動を推進します。

さらに，全てのライフステージを対象とした総合型地域スポーツクラブの育成や障害者スポーツ活動を推進します。

２ 競技スポーツの振興 （SDGs：3，4）

市民が質の高い指導を受けられるよう，市スポーツ協会加盟競技団体や民間事業者と連携して指導者向け講習会を開催し，コーチング技術や人格に優れた指導者の育成に取り組むとともに，ジュニア世代から全国大会に出場できる選手の育成に努めるなど，競技力の向上を図ります。

また，既存スポーツ施設の長寿命化改修や機能強化等を推進し，市民が安心して快適に利用できる環境づくりに努めます。

３ スポーツを生かしたまちづくりの推進 （SDGs：17）

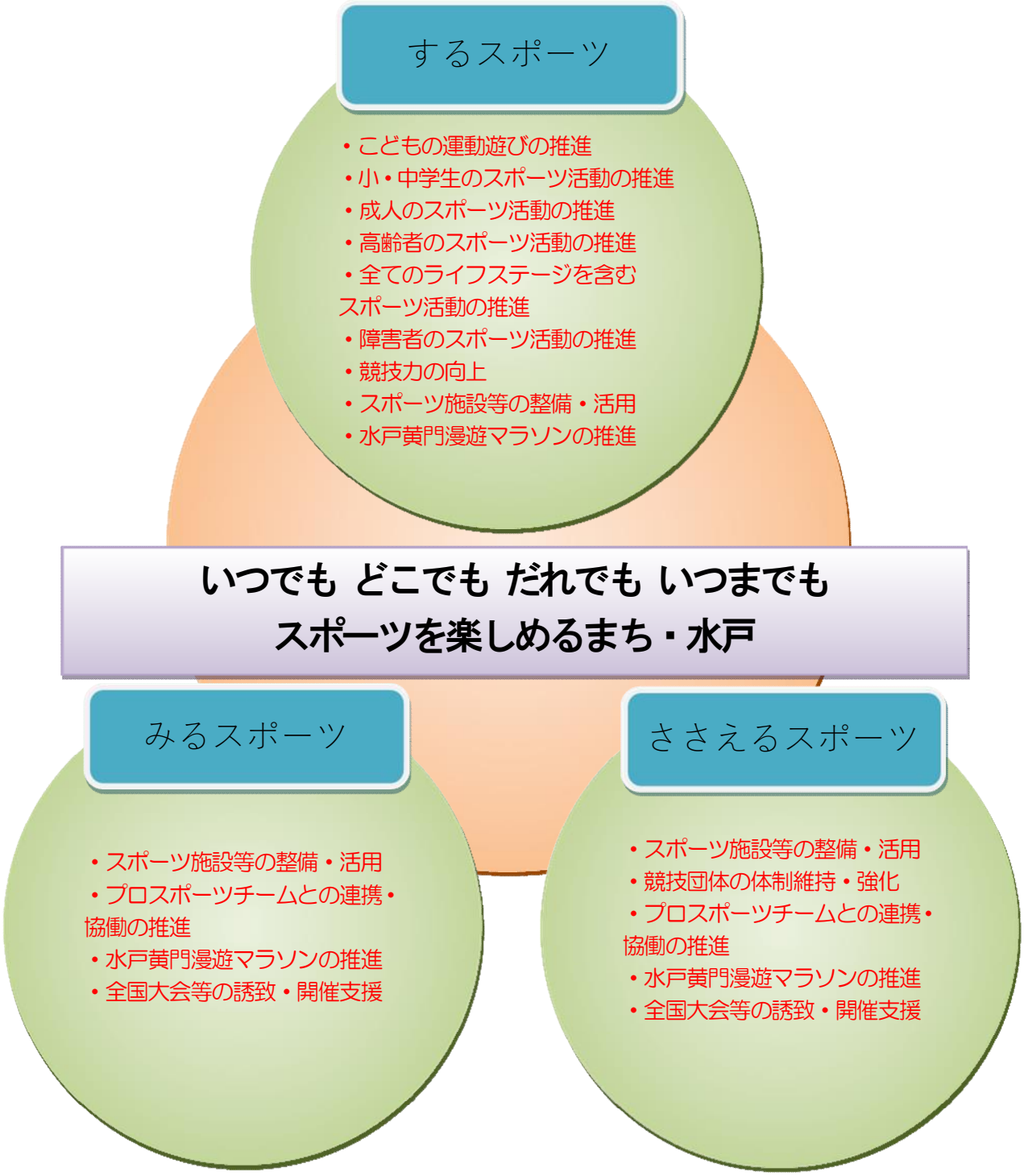
水戸ホーリーホックや茨城ロボッツをはじめとしたプロスポーツチームを地域の宝として応援していくことで，見る者の心を感動させ，スポーツの魅力をより深く感じられる機会を積極的に提供していきます。

また，水戸黄門漫遊マラソンを開催するほか，全国大会等の大規模なスポーツコンベンションをより多く誘致することで，「する」スポーツに加え，選手の応援（「みる」スポーツ）や，ボランティア（「ささえる」スポーツ）という，あらゆるシーンでスポー

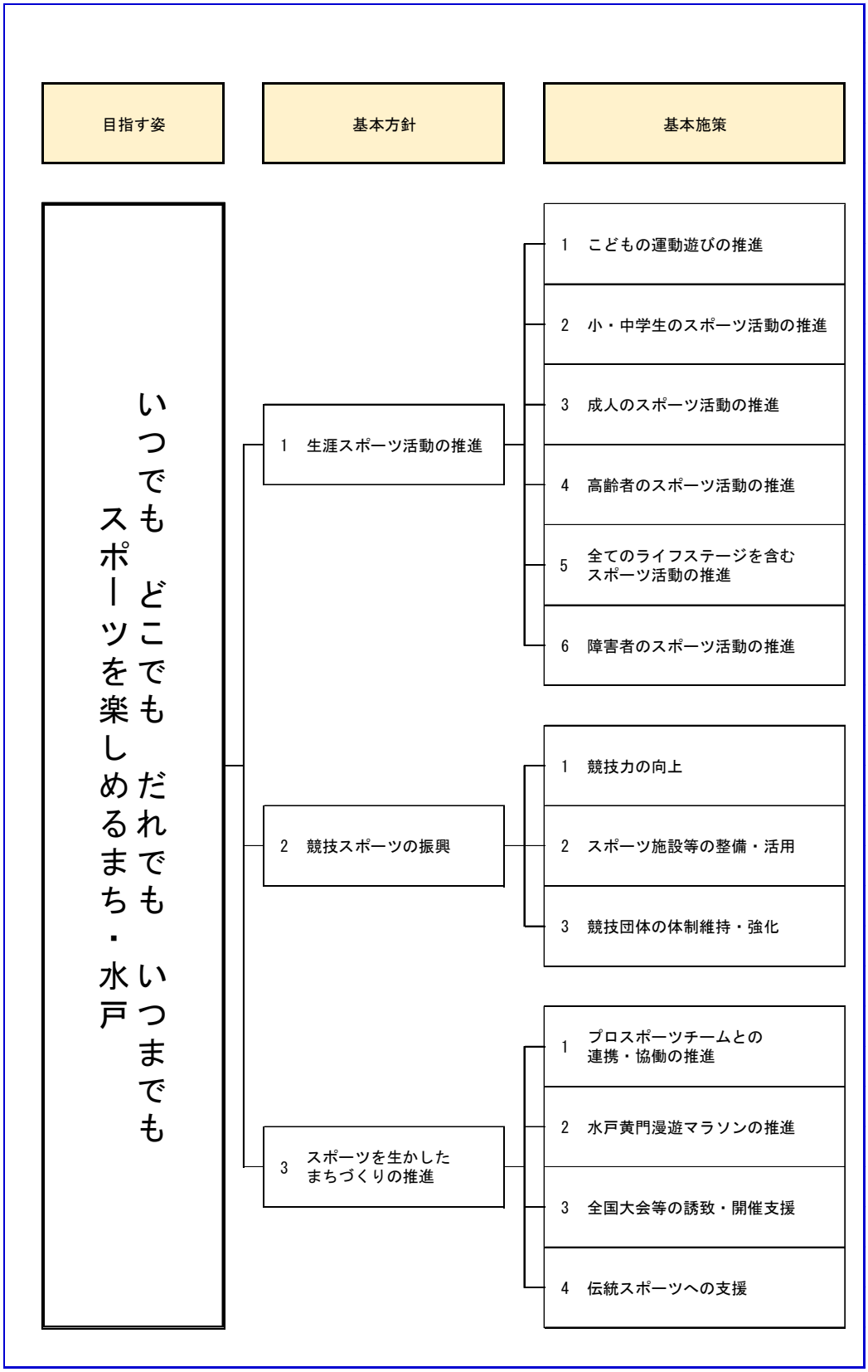
ツを楽しむ機会を増やすとともに，まちのにぎわいや人々の交流を創出します。

さらに，水府流水術，田谷の棒術，北辰一刀流，新田宮流抜刀術など，水戸ならではの伝統スポーツの保存・継承に取り組みます。

【計画の基本方針イメージ図】



３　施策の体系


目指す姿
基本方針
基本施策
いつでも　どこでも　だれでも　いつまでも
スポーツを楽しめるまち・水戸
1　生涯スポーツ活動の推進
1　こどもの運動遊びの推進
2　小・中学生のスポーツ活動の推進
3　成人のスポーツ活動の推進
4　高齢者のスポーツ活動の推進
5　全てのライフステージを含むスポーツ活動の推進
6　障害者のスポーツ活動の推進
2　競技スポーツの振興
1　競技力の向上
2　スポーツ施設等の整備・活用
3　競技団体の体制維持・強化
3　スポーツを生かしたまちづくりの推進
1　プロスポーツチームとの連携・協働の推進
2　水戸黄門漫遊マラソンの推進
3　全国大会等の誘致・開催支援
4　伝統スポーツへの支援

第4章　施策の展開

基本方針１　生涯スポーツ活動の推進

【目標指標】

指標	現状 2023（令和５） 年度	目標 2028（令和 10） 年度
運動やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合	86.9%	90%
成人の週１回以上のスポーツ実施率	40.6%	60%
健康のために適度な運動を心がけている人の割合	39.1%	50%
市立学校体育施設夜間開放事業の利用者数	132,959 人	150,000 人

基本施策1　　こどもの運動遊びの推進

○　保健師や保育士等による育児相談などの機会を通じて，乳幼児期からの身体を使った運動遊びの必要性を保護者に理解してもらえるよう啓発に努めます。

主な取組	事業主体
・　３歳児健診・育児相談の実施	市
・　地域子育て支援拠点事業の実施	市

○　幼児，児童，親子向けのスポーツ教室やスポーツイベントの機会を通じて，こどもの運動習慣や体力づくりを図ります。

主な取組	事業主体
・　各種スポーツ教室の開催	市 関係機関 関係団体
・　子育て支援・多世代交流センターでのヨガ・リトミック・体操教室の開催	市
・　水戸ホーリーホックによるサッカー教室及び茨城ロボッツによるバスケットボール教室の開催	市 事業者

主な取組	事業主体
・　いばらき県央地域スポーツフェスティバル，スポーツ・健康フェスティバルの開催	市
・　プレースポーツみと，Ｆun!　Ｆan スポーツフェスタの開催	関係機関
・　夏季プール開放事業の実施	市

○　こどもたちが安全に外遊びのできる環境づくりに向けて，見守り活動の促進を図ります。

主な取組	事業主体
・　こどもの安全守る家の実施	市

コラム　こどもが運動好きになる遊び

こどもが遊びを中心とする身体活動を行うことは，多様な動きを身に付けるだけでなく，心肺機能や骨形成にも寄与するなど，生涯にわたって健康を維持したり，何事にも積極的に取り組む意欲を育んだりするなど，豊かな人生を送るための基盤づくりとなります。

ここでは，海外のドイツで実践されている「バルシューレ」と「ライフキネティック」を紹介します。

○　バルシューレ

バルシューレは，ボールゲームを通して，投げるや蹴るといったさまざまな動きを経験し，成長することを目指す運動教育です。

本格的なスポーツを始める前に取り組むことで，身体の動かし方やボールの基本的な扱い方を学びながら，自己肯定感やコミュニケーション能力なども同時に養い，最終的には，自分の好きなまたは得意なプログラムを見つけ，身体を動かすことの楽しさを知ることを目的とします。

○　ライフキネティック

ライフキネティックは，誰でもできる簡単な動きを通じて脳に刺激を与え，脳機能の向上と神経の伝達機能強化を促すことを目的としています。楽しく複雑な刺激が脳内のネットワークを大きく改善させるとともに，見て，判断して，動くという一連の動作の「見る」という視覚機能の改善も期待できます。

こちらのトレーニングは，こどもの学習能力と集中力の向上，アスリートのパフォーマンス向上，勤労者のストレスの解消・メンタルケア，中高齢者の注意力と理解力の向上が期待できるとされています。

基本施策2　　小・中学生のスポーツ活動の推進

○　小学生を対象に放課後の居場所をつくることで，仲間とスポーツや外遊びができる場所を提供します。

主な取組	事業主体
・　放課後学級・放課後子ども教室の実施	市

○　小・中学生向けのスポーツ教室・スポーツ大会を開催し，スポーツを楽しみこどもの発育発達や人間形成に資します。

主な取組	事業主体
・　公共スポーツ施設での種目別スポーツ教室・スポーツ大会の開催	関係機関 関係団体

○　学校における体育の授業やスポーツ活動の充実を図るとともに，プロスポーツチームと連携してスポーツにふれる機会を創出することにより，小・中学生の体力向上を図ります。

主な取組	事業主体
・　体力アップ推進プランに基づく活動の充実	市
・　水戸ホーリーホックによるサッカー教室及び茨城ロボッツによるバスケットボール教室の開催（再掲）	市 事業者
・　プロスポーツチームとの交流給食の実施	市 事業者

○　学校部活動において，教員に代わり指導や大会引率等を担う部活動指導員を活用するとともに，学校部活動の段階的な地域移行に伴う地域のスポーツ関連団体や地域人材の活用を通して，専門的な指導力（知識・技能）を持つ指導者の確保及び指導者情報の提供と活用促進を図るなど，こどもたちのスポーツ活動の活性化を図ります。

主な取組	事業主体
・　小学校体育連盟・中学校体育連盟の活動支援	市
・　学校部活動指導員制度の活用	市
・　地域クラブ活動人材バンクへの登録者の充実	関係機関

○　各競技団体の協力のもと，スポーツ少年団活動の充実を図るとともに，リーダーや指導者の育成とあわせ，文化活動，社会貢献など幅広い活動や，中学生以上のこどもたちも継続してスポーツに親しめる場の確保に努めます。

主な取組	事業主体
・　スポーツ少年団・各競技団体の活動支援	市

○　市民がスポーツに関する指導及び助言を受けることができる機会の充実を図るため，スポーツ推進委員をはじめ，スポーツ少年団のコーチングアシスタント・スタートコーチ等のスポーツ指導者の確保・育成に取り組むとともに，活動の周知を図ります。

主な取組	事業主体
・　スポーツ指導者の確保・育成	市

コラム　スポーツ少年団

スポーツ少年団は，1962（昭和 37 年）に創設された全国組織であり，単位スポーツ少年団，市区町村スポーツ少年団，都道府県スポーツ少年団，日本スポーツ少年団の４つの段階で構成・運営されています。

対象年齢は３歳から 19 歳までであり，各少年団には，主に小学生が入団しています。

スポーツ少年団の理念は，次の３つです。

・　一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを提供する
・　スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる
・　スポーツで人々をつなぎ，地域づくりに貢献する

このことから，スポーツを楽しむだけでなく，学習活動，野外活動，レクリエーション活動，社会活動，文化活動などを通じて協調性や創造性を養い，社会のルールや思いやりのこころを学ぶことが期待されています。

水戸市では，次の 26 競技の 81 単位団が元気に活動しています。

野球，ドッジボール，柔道，バレーボール，ミニバスケットボール，バドミントン，水泳，レスリング，合気道，ソフトテニス，少林寺拳法，ローラースケート，ボウリング，テニス，剣道，フェンシング，ラグビー，ソフトボール，体操，陸上，スケート，スキー，ゴルフ，空手道，卓球，サッカー

基本施策3　　成人のスポーツ活動の推進

○　日常生活の中で歩く，運動するなどの主体的な身体活動を推進し，運動習慣の効果の普及・啓発に努めます。

主な取組	事業主体
・　エコ通勤チャレンジウィークの推進	市
・　みとちゃん健康マイレージ事業・いばらきヘルスケアポイント事業の推進	市 関係機関

○　個々人がスポーツに親しむきっかけづくりとして，ウオーキング，ジョギング，サイクリング活動等を促進し，あわせて水戸黄門漫遊マラソンを開催するなど，健康の保持増進に努めます。

主な取組	事業主体
・　ヘルスロードを活用したジョギング・ウオーキングの推進	市 関係機関
・　自転車利用の普及・啓発，サイクルマップの作成	市
・　ジョギング・ウオーキング・サイクリングコースの活用促進	市
・　ノルディックウオーキング教室，歴史探訪ウオーキングの開催	市 関係機関
・　水戸黄門漫遊マラソンの開催（再掲）	市 関係機関

コラム　おすすめウオーキング，ランニング，サイクリングコース

千波公園と偕楽園及び周辺の緑地等は，まちなかに隣接する都市公園としてジョギングやウオーキングに適しています。

また，市内には，県がウオーキングコースとして指定する「ヘルスロード」や，ウェブ上でランナーやサイクリスト向けのサイトが情報提供しているランニングコース，サイクリングコースが豊富にあります。

○　ヘルスロード

県では，県民が身近なところで，歩いて新たな発見と健康増進にチャレンジ出来るヘルスロー

ドの整備を図り，ウオーキング活動の実践を支援しています。

令和５年２月時点では，水戸市内には，0.4km から 8.8km までの 70 のコースが指定されており，うち 32 のコースについては３km 以上であることから，周回することによりランニングコースとしても利用できます。

○　トレッキング・トレイルランコース

水戸森林公園では，成沢地区にトレッキングやトレイルラン用のコースを整備しています。マップは，市のホームページで確認できるほか，森の交流センターでも配布しています。

○　サイクリングマップ（いばらき県央地域観光協議会）

茨城県の中央部に位置する９市町村の観光振興を目的とした同協議会では，風景や立ち寄りスポット，グルメなどを楽しめる３つのコースを紹介しています。

①　ひたちなか市，大洗町，東海村を巡る全長約 43km のコース

②　笠間市，小美玉市，茨城町を巡る全長約 105km のコース

③　水戸市，那珂市，城里町を巡る全長約 37km のコース

○　日頃スポーツに接しない市民が気軽に楽しめるレクリエーションや体力づくりのためのプログラム，スポーツイベントなどの機会を提供し，スポーツに参加しやすい環境づくりに努めます。

主な取組	事業主体
・　市民センターでの運動教室の開催	市
・　各種スポーツ・レクリエーションを通じた健康づくりイベントの開催	市
・　公共スポーツ施設での種目別スポーツ教室・健康づくり教室・水泳教室の開催（再掲）	関係機関

○　スポーツを楽しみ，生きがいづくりや仲間づくりにつながるよう，学校施設を活用した事業の推進に努めます。

主な取組	事業主体
・　市立学校施設夜間開放・県立学校スポーツ施設開放事業の促進	市

コラム　市立学校施設夜間開放事業

市民の健康増進と地域の連帯意識の高揚を図るため，市立学校施設（体育館）を身近なスポーツ活動の場として，市民に開放しています。

開放時間は，こどもたちが下校した後の夜間（午後６時～午後９時）とし，対象となる学校は，水戸市立の 29 の小学校と 15 の中学校及び義務教育学校となります。

利用に当たっては，使いたい団体が公平に扱われるよう，利用団体の代表，教員，スポーツ推進委員などで構成される，学校ごとの夜間開放運営委員会により調整しています。

学校の体育館は，あくまでも学校に通うこどもたちのための施設ですので，学校行事の準備期間には使用ができなかったり保管スペースも無いため，原則は運動用具等の持ち込み持ち帰りとしています。

また，学校によっては，地区の活動等への協力を，施設利用の条件としている場合もあります。

それでも，無料開放ということもあり，現状では，対象となる全ての学校施設において，250 を越える団体が活動しており，年間のべ 13 万人が継続的にスポーツを行っています。

夜間開放利用状況一覧　令和５年度

競技名	クラブ・団体数	競技名	クラブ・団体数
バレーボール	75	ドッジボール	10
バスケットボール	71	フットサル	6
バドミントン	40	体操	3
ソフトバレーボール	24	インディアカ	3
剣道	12		
卓球	12	その他	11
		計	267

基本施策4　　高齢者のスポーツ活動の推進

○　水戸市スポーツ振興協会による高齢者向けの健康づくり教室や水泳教室をはじめ，市民センター等で行われている太極拳教室や健康体操教室，水戸市高齢者クラブ連合会が主催する「高齢者クラブスポーツ大会」，元気アップ・ステップ運動やシルバーリハビリ体操，いきいき健康クラブの実施など，高齢者の健康・体力づくりに資するスポーツ活動の充実に努めるとともに，これらの活動を通した交流，仲間づくり，生きがいづくりの支援に取り組みます。

主な取組	事業主体
・　公共スポーツ施設での種目別スポーツ教室・健康づくり教室・水泳教室の開催（再掲）	関係機関
・　市民センターでの運動教室の開催（再掲）	市
・　高齢者クラブスポーツ大会の開催	市
・　元気アップ・ステップ運動やシルバーリハビリ体操，いきいき健康クラブ，シニアライフ講座の実施，いきいき交流センターでの運動教室の開催	市

○　ウオーキング，ジョギング，サイクリング，マラソン等の身体活動により，高齢者の健康や体力の保持増進に努めます。

主な取組	事業主体
・　ヘルスロードを活用したジョギング・ウオーキングの推進（再掲）	市 関係機関
・　自転車利用の普及・啓発，サイクルマップの作成（再掲）	市
・　ジョギング・ウオーキング・サイクリングコースの活用促進（再掲）	市
・　ノルディックウオーキング教室，歴史探訪ウオーキングの開催（再掲）	市 関係機関
・　水戸黄門漫遊マラソンの開催（再掲）	市 関係機関

基本施策5　　全てのライフステージを含むスポーツ活動の推進

○　市民がスポーツ施設を利用しやすくするために，ホームページ等による情報発信を充実させるとともに，活動の場と市民とを繋げる取組を推進します。

主な取組	事業主体
・　スポーツ活動に関する情報の収集・集約・発信	市 関係機関
・　「いばらき公共施設予約システム」の充実	関係機関

○　総合型地域スポーツクラブの結成を支援するため，県広域スポーツセンターや県スポーツ協会が開催する創設支援事業や各種スポーツ指導者の育成事業への参加を促進するとともに，スポーツボランティアの確保と養成に努めます。

主な取組	事業主体
・　総合型地域スポーツクラブの結成支援	市
・　各種スポーツ指導者の育成及び活動の支援	市
・　スポーツボランティアの確保，養成	市

○　地域住民が自主的に運営する総合型地域スポーツクラブの育成に努めるとともに，水戸市体育祭市民スポーツ大会をはじめとする地域におけるスポーツイベントの開催を奨励するなど，地域住民による多様なスポーツ活動の振興に努めます。

主な取組	事業主体
・　総合型地域スポーツクラブの活動支援	市
・　水戸市体育祭の開催	市
・　ふるさと農場，市民農園等での農作業体験を通じた健康づくり	市

○　広域公園等に，親子で外遊びを楽しめる遊具や空間を提供するとともに，健康づくりに適した運動器具や障害のある子もない子も等しく利用できるような遊具（インクルーシブ遊具）の整備を検討します。

主な取組	事業主体
・　公園内への遊具・運動器具の整備検討	市
・　スロープの設置や段差の解消をはじめとしたバリアフリー・ユニバーサルデザインの導入推進	市
・　公園における健康運動を目的とした健康遊具・設備の整備の推進	市

コラム　総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブは，人々が，身近な地域でスポーツに親しむことのできるスポーツクラブで，公共スポーツ施設等を活用し，こどもから高齢者まで，それぞれの志向・競技レベルに合わせて参加できるという特徴を持ち，地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブです。

水戸市内では，現在２団体が活動しています。

○　酒門いきいきスポーツクラブ

酒門地区を拠点として，幼児から高齢者まで多世代の人たちを対象に青少年の健全育成や地域住民の生涯スポーツの推進を図るとともに，健康で生き生きとした「元気な酒門のまちづくり」に寄与する事業を展開しています。

○　一般社団法人パシオアスレチッククラブ

大足町内に自らが所有しているサッカーコートを拠点にしており，スポーツを通じて，元気でたくましい子どもたちの成長に資することや，放課後や休日の「遊び」の中で培われた，たくましさ，協調性，創造性を現代に適した形で身に付けてもらうこと，家族で大人同士，コミュニケーションの場としての活動を通して豊かなオフタイムを過ごすことなどを目指して活動しています。

○　地域スポーツの推進役であるスポーツ推進委員と協力して，実技指導や各種スポーツ事業の企画・運営などを行い，市民のスポーツ活動を活性化していきます。

主な取組	事業主体
・　スポーツ推進委員の活動支援	市

コラム　スポーツ推進員

スポーツ推進委員は，スポーツ基本法第 32 条に基づき，本市のスポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツ実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う者で，非常勤の公務員という身分を有します。

本市には，現在 102 名（34 地区×３名）のスポーツ推進委員が活動しており，業務内容としては，事業の企画・立案や運営のほか，地域住民・行政・スポーツ団体の間の円滑な連携の調整などを行い，地域スポーツの中核的役割を担っています。

具体的な主な取組に関しては，次のとおりです。

○　スポーツ・健康フェスティバルの企画運営

本市が開催するスポーツ・健康をテーマとしたフェスティバルの内容を企画するとともに，開催当日の運営を行います。

○　水戸市体育祭市民スポーツ大会への協力

各地区会のスポーツ・レクリエーション部のメンバーと協力して，市民スポーツ大会の企画・運営に携わります。

○　実技研修会

全国スポーツ推進委員研究協議会や関東スポーツ推進委員研究大会等に参加し，学んできたことを他の委員と情報共有する実技研修会を開催します。

○　夜間開放運営委員会

市民の健康増進と地域の連帯意識の高揚を図るために夜間開放している学校施設（体育館）を使用する団体間の連絡調整を運営委員会の委員として行っています。

基本施策6　　障害者のスポーツ活動の推進

○　障害者のスポーツ・レクリエーション大会を通して，障害者が健康で生きがいのある生活を送るための交流を促進するとともに，水戸市身体障害者福祉センター「つどい」や市障害者教養文化体育施設「水戸サン・アビリティーズ」等において，各種講座や教室を開催するほか，水戸市スポーツ振興協会において，障害者（児）水泳教室やジョギング教室を開催し，楽しみながら健康づくりやスポーツ活動を行う機会の充実を図ります。

主な取組	事業主体
・　障害者のスポーツ・レクリエーション大会の開催	市
・　全国及び県の障害者スポーツ大会の開催	関係機関
・　障害者スポーツ指導者養成講習会の開催	関係機関
・　各種講座・教室の開催	市
・　障害者（児）水泳教室・ジョギング教室の開催	市 関係機関

コラム　ユニバーサル・スポーツ

これまでの障害者スポーツは，障害の種類や程度に合わせてルールや用具等を工夫して障害者同士が行うスポーツ（アダプテッド・スポーツ）が主流でした。

しかし最近では，障害の有無にかかわらず誰もが参加できるスポーツ（ユニバーサル・スポーツ）も行われるようになりました。誰でも参加でき，楽しめる共生社会や，SDGs「3 すべての人に健康と福祉を」に寄与するものとして期待されます。

基本方針２　競技スポーツの振興

【目標指標】

指標	現状 2023（令和５） 年度	目標 2028（令和 10） 年度
水戸市在住の日本スポーツ協会指導者数	865 人	900 人
スポーツ施設の利用者数	1,040,759 人	1,100,000 人
全国大会等への出場者数	256 人	300 人

基本施策１　　競技力の向上

○　競技団体と連携しながら，あらゆるスポーツにチャレンジできる環境づくりに取り組むとともに，長期的な展望に立ったジュニア層の選手の育成を推進し，国際・全国大会等で活躍できる選手の育成に努めます。

主な取組	事業主体
・　ジュニア層の選手の育成支援	市

コラム　水戸市スポーツ協会加盟団体

水戸市スポーツ協会は，1941（昭和 16）年４月に「水戸市体育会」として設立され，1960（昭和 35）年９月に「水戸市体育協会」として再発足し，平成 30 年５月に「水戸市スポーツ協会」に名称を変更いたしました。現在 44 団体が加盟しています。

水戸市スポーツ協会は，市民スポーツの振興と各種競技団体の育成強化を図り，スポーツを通じ市民の生活を明朗にすることを目的に，各種競技大会の開催，選手・審判員の育成強化，社会体育指導者研修会の実施，優秀選手及び体育優良団体の表彰等の事業を行っています。

なかでも，水戸市体育祭の一環として各加盟団体が開催している各競技大会は，愛好者と競技大会とをつなぐ普及振興目的の位置づけであり，令和５年度は，○競技に○人の選手が出場し，審判や観覧者等の関係者を含めると，計○名の人々が参加するイベントとなっています。

なお，次の協会加盟競技団体では，共に各競技を盛り上げていく仲間を募集しておりますので，運動不足を解消したい，趣味を見つけたい，一緒に競技に取り組む相手を探したい，技術を磨きたい，後進を指導したい等ございましたら，お問い合わせください。

【加盟競技団体】

水戸市陸上競技協会，水戸市バスケットボール協会，水戸野球連盟，水戸地区剣道連盟，水戸市柔道協会，水戸市スキー連盟，水戸市ソフトテニス協会，水戸市相撲連盟，水戸市卓球協会，水戸市弓道連盟，水戸市バドミントン協会，水戸市スケート連盟，水戸市レスリング協会，水戸市水泳協会，水戸市サッカー協会，水戸市中学校体育連盟，水戸市体操協会，水戸市バレーボール協会，水戸市テニス協会，水戸市ハンドボール協会，水戸市ラグビーフットボール協会，水戸市空手道協会，水戸市馬術協会，水戸市小学校体育連盟，水戸市ソフトボール協会，水戸市ボウリング連盟，水戸市ゴルフ協会，水戸市合気道連盟，水戸市ローラースケート協会，水戸市少林寺拳法連盟，水戸市ダンススポーツ協会，水戸市ゲートボール連盟，水戸市レクリエーション協会，水戸市なぎなた連盟，水戸市射撃協会，水戸市銃剣道連盟，水戸市パワーリフティング協会，水戸市フェンシング協会，水戸市ターゲット・バードゴルフ協会，水戸市ドッジボール協会，水戸市ソフトバレーボール連盟，水戸市インディアカ協会，水戸市グラウンド・ゴルフ協会，水戸市ユニカール協会　以上 44 団体

○　水戸市における各種競技大会等を通じて市民の交流と競技レベルの向上に努めます。

主な取組	事業主体
・　水戸市体育祭市民競技大会の開催	市 関係団体
・　那珂川遠泳大会，国民皆泳水戸市水泳大会の開催	関係機関 関係団体
・　飛田穂洲旗中学校野球大会，水戸市陸上記録会，水戸市軟式野球大会の開催	関係機関 関係団体
・　水戸市元旦マラソン大会，水戸千波湖ロードレース大会の開催	関係機関 関係団体
・　各競技団体主催の大会・競技会の開催	市 関係団体

○　国際・全国規模の競技会やスポーツイベントなどの誘致を推進し，青少年がトップレベルの競技スポーツに身近に接することのできる機会の充実を図ります。

主な取組	事業主体
・　全国規模の競技会やスポーツイベントなどの誘致	市 関係機関

主な取組	事業主体
・　水戸招待陸上，全国中学生ラグビーフットボール大会，東日本少年軟式野球大会・東日本軟式野球選手権大会など，誘致に成功した大会の継続開催	市 関係機関
・　いばらき県央地域スポーツフェスティバル，スポーツ・健康フェスティバルの開催（再掲）	市
・　プレースポーツみと，Ｆun! Ｆan スポーツフェスタの開催（再掲）	関係機関

コラム　水戸が聖地の全国大会等

水戸市には，全国トップレベルの選手の登竜門として古くから開催されている少年少女向けの全国大会が多数存在します。

これらの大会は，毎年多くの人々を水戸に集めることから，地域の盛り上がりや，経済効果を生み出しています。

○　文部科学大臣杯全国選抜少年剣道大会（2023（令和５）年で第 64 回）

1966（昭和 41）年が第１回となる歴史ある大会で，当時は小学生による全国大会は認められなかったため，錬成（日頃の鍛錬の成果を披露する場）という名目で開催することとなりました。

この大会は，水戸東武館が創設した大会であるため，当初は東武館で開催されていましたが，その後，参加者の増加に伴い大会の規模が大きくなり，県立武道館やリリーアリーナ MITO を経て，現在はアダストリアみとアリーナで毎年３月末に開催されています。

○　沼尻直杯　全国中学生レスリング大会（2023（令和５）年で第 49 回）

茨城県で１巡目の国体が開催された翌年の 1975（昭和 50）年に，当時の茨城県レスリング協会の沼尻直会長が中心となり第１回大会を開催しました（その後，全国中学生レスリング連盟が設立された際には，同氏は初代会長に就任しました）。

2007（平成 19）年の大会以降は，最優秀選手に「沼尻直杯」が授与されることとなり，沼尻直杯全国中学生レスリング大会として，現在も毎年６月に水戸市内で開催されています。

なお，第１回から第 41 回大会までの会場は，県立スポーツセンター体育館でしたが，2019（令和元）年に茨城県内で２巡目の国体が開催されることとなったことを契機に，同敷地が水戸市に移管され，2019（令和元）年に新設されたアダストリアみとアリーナが新たな聖地となりました。

○　全国カデ・フェンシング選手権大会（2023（令和５）年で第 27 回）

カデ年齢（13 歳以上 17 歳未満）によるフェンシングの全国大会で，第１回大会は 1996（平成８）年に開催しました。この大会は，当時の茨城県フェンシング協会の永野武晨会長が，県立スポーツセンター地下にフェンシング場が整備されたことをきっかけとして，中学生の全国大会を設立しました。

第 23 回大会以降は，アダストリアみとアリーナを使用しており，毎年水戸市で開催されるこの

大会が，日本のフェンシングの競技レベルの向上に貴重な役割を果たしています。

○　太陽生命カップ全国中学生ラグビーフットボール大会（2023（令和５）年で第 14 回）

ユース強化施策と中学生カテゴリーの競技者普及策の一環で，日本ラグビーフットボール協会が創設した大会で，第２回大会からはケーズデンキスタジアム水戸及び市立サッカーラグビー場を会場とし，毎年９月に開催されています。

また，2016（平成 28）年の第７回大会からは，女子の部を７人制で新設しました。

○　飛田穂洲旗中学校野球大会（2023（令和５）年で第 36 回）

飛田穂洲は，日本の学生野球の発展に多大な貢献をしたことから「学生野球の父」と呼ばれ，野球に取り組む姿勢を「一球入魂」と表した郷土の偉人であり，イチローや大谷翔平につながる「わが国の野野球文化の源流」として位置付けられます。

水戸市では，ご遺徳を偲び，野球を通して中学生の体力の養成に努め，心身ともに強健な人間づくりを行う軟式野球大会を開催しています。

1988（昭和 63）年に第１回を開催して以降，毎年４月の始めに県内の中学生を集めてノーブルホームスタジアムにて大会を開催しており，水戸の誇りとして，その名を後世に引き継いでいます。

○　競技者等の負担軽減を図るため，全国規模の競技大会参加者への支援に努めます。

主な取組	事業主体
・　各種大会選手役員派遣補助事業の実施	市
・　市立学校児童生徒に係る各種大会参加補助事業の実施	市

○　各種大会で優秀な成績を収めた選手やチームの顕彰とあわせ，その活躍を様々なメディアを通じて効果的に発信するなど，選手のモチベーションの向上と市民のスポーツに対する関心を高め，競技スポーツの振興を図ります。

主な取組	事業主体
・　成績優秀者の顕彰等の充実	市 関係団体

○　競技団体やプロスポーツチーム，大学，高校，民間事業者等と連携しながらスポーツ医科学などを取り入れ，コーチング技術や人格に優れた競技スポーツ指導者の確保・育成に取り組み，競技力の向上を目指す選手が指導を受けられる機会の充実に努めます。

主な取組	事業主体
・　社会体育指導者研修会の開催	市 関係団体

基本施策2　　スポーツ施設等の整備・活用

○　スポーツ施設は，生涯スポーツや競技スポーツを含む全ての市民の「する・みる・ささえる」スポーツ活動の場であり，居場所です。日常的に利用するスポーツ施設や公園の整備・改修を進めるとともに，学校体育施設の夜間開放事業等を促進するほか，民間事業者が所有するスポーツ施設の地域での利活用についても，協力にむけた働きかけを進めます。

主な取組	事業主体
・　東部公園スポーツ・レクリエーションゾーンの整備	市
・　千波公園におけるパークＰＦＩによるスポーツエリアの整備	市 事業者
・　森林公園におけるトレッキング等の推進を図るための歩道等の整備	市
・　既存スポーツ施設の改修整備	市
・　スロープの設置や段差の解消をはじめとしたバリアフリー・ユニバーサルデザインの導入推進（再掲）	市
・　公園における健康運動を目的とした健康遊具・設備の整備の推進（再掲）	市
・　市立学校施設夜間開放・県立学校体育施設開放事業の促進	市
・　「いばらき公共施設予約システム」の充実（再掲）	関係機関
・　民間スポーツ施設利活用の促進	市

○　市民の競技力の向上や大規模大会の開催・誘致に向け，スポーツ施設の機能強化及び整備を検討します。

主な取組	事業主体
・　新たな屋内公認プールの整備検討	市
・　新たな武道場の整備検討	市
・　新たなアクティブスポーツ施設の整備検討	市
・　ケーズデンキスタジアム水戸の機能強化検討	市
・　アダストリアみとアリーナの機能強化	市

○　広域公園等に，親子で外遊びを楽しめる遊具や空間を提供するとともに，健康づくりに適した運動器具や障害のある子もない子も等しく利用できるような遊具（インクルーシブ遊具）の整備を検討します。

主な取組	事業主体
・　公園内への遊具・運動器具の整備検討（再掲）	市

コラム　近年整備した公共スポーツ施設

2019（令和元）年に茨城国体が開催されたことなどを契機として，東町運動公園を整備するとともに，既存の施設においても大規模な改修を行っており，市民が安心して快適に施設を利用できる環境づくりに取り組んでいます。

○　東町運動公園

東町運動公園は，茨城国体を開催するために必要な要件を満たすため，2015（平成 27）年に同敷地が茨城県から水戸市に移管され，市の施設として整備され，2019（平成 31）年４月に供用開始しました。

公園内の体育館（アダストリアみとアリーナ）は，メインアリーナに大型映像装置を有し，5,000 名を収容できる県内最大級の施設であり，様々な大規模イベントにも利用されています。

○　総合運動公園

市民球場（ノーブルホームスタジアム水戸）は，茨城国体に向けて，両翼及び中堅の拡張等の大規模改修を行い 2018（平成 30）年に完了しました。

体育館は，アリーナの空調設置や床面改修等の大規模改修工事を 2016（平成 28）年に完了しました。

○　市立サッカー・ラグビー場

人工芝を 2016（平成 28）年，天然芝を 2018（平成 30）年に張り替えるとともに，2019（令和元）年に約 120 台分の駐車場の整備を完了しました。

○　青柳公園

体育館（リリーアリーナ MITO）は，アリーナの空調設置や床面改修等の大規模改修工事を，2013（平成 25）年に完了しました。

○　下入野健康増進センター

屋内プール，トレーニング室，グランドゴルフ場等を備えた健康増進施設を新設し，2022（令和４）年４月に供用開始しました。

○　堀原運動公園

武道館（東日本技術研究所武道館）内の弓道場は，2019（令和元）年に遠的場に防球ネットが設置されるなど整備されました。

水戸市内公共スポーツ施設マップ

施設名称	通称名（ネーミング）
市立競技場	ケーズデンキスタジアム水戸
総合運動公園市民球場	ノーブルホームスタジアム水戸
東町運動公園体育館	アダストリア みと アリーナ
青柳公園市民体育館	リリーアリーナＭＩＴＯ
県営堀原運動公園武道館	東日本技術研究所武道館

基本施策3　　競技団体の体制維持･強化

○　市スポーツ協会に加盟している競技団体をはじめとするスポーツ振興組織において，市民のニーズを踏まえた運営や施策の拡充に努めるとともに，個々のスポーツ団体・グループが行う多様なスポーツ活動の支援や競技力の向上のために，ホームページ等を活用して活動の周知に努めるほか，スポーツ振興組織で活動する人材の確保・育成に取り組みます。

主な取組	事業主体
・　スポーツ振興組織の活動の周知，人材の確保・育成	市 関係団体

○　市スポーツ振興協会において，競技団体と連携・協力しながら，各種事業の充実を図るとともに，スポーツ施設の利用促進に取り組みます。

主な取組	事業主体
・　市スポーツ振興協会における事業の充実	市 関係機関
・　市スポーツ振興協会と競技団体との連携強化	関係機関 関係団体

基本方針３　スポーツを生かしたまちづくりの推進

【目標指標】

指標	現状 2023（令和５） 年度	目標 2028（令和 10） 年度
大規模大会の開催・誘致件数	13 大会	20 大会
水戸ホーリーホックのホームゲームの年間平均観客数	3,362 人	10，000 人
茨城ロボッツのホームゲームの年間平均観客数	4,300 人	4,500 人
水戸黄門漫遊マラソンにおけるボランティア参加者数	6,116 人	7,500 人

基本施策1　　プロスポーツチームとの連携･協働の推進

○　みるスポーツの進展に向け，水戸ホーリーホックや茨城ロボッツなど水戸市をホームタウンとするプロスポーツチームの観戦情報をはじめ，市内で開催されるプロスポーツやトップアスリートが参加する競技大会，さらには本市出身の選手が出場するスポーツの情報など，多様なスポーツ観戦情報を様々なメディアを通じて効果的に発信します。

主な取組	事業主体
・　観戦スポーツ情報の発信	市
・　パブリックビューイングの開催	市 事業者

○　水戸ホーリーホックや茨城ロボッツなどのプロスポーツチームが，より地域に密着し，市民から親しまれる存在となるよう，チームと連携してホームゲームの誘客促進に努めるなど，市民，事業者と一体となった支援活動を推進します。

主な取組	事業主体
・　ホームゲームの誘客促進	市 事業者
・　水戸ホーリーホック･ホームタウン推進協議会事務局の運営	市

主な取組	事業主体
・　茨城ロボッツ応援団の活動支援	市
・　水戸ホーリーホック，茨城ロボッツのリーグ基準にあった施設整備に向けた応援体制の充実	市
・　アダストリアみとアリーナの機能強化（再掲）	市

○　水戸ホーリーホック，茨城ロボッツ，水戸市の三者共同による「MITO BLUE PRIDE」や水戸ホーリーホックによるサッカー教室及び茨城ロボッツによるバスケットボール教室の開催等を通じて，市民のスポーツへの興味・関心を広げるとともに，プロスポーツチームと連携したにぎわいのあるまちづくりを推進します。

主な取組	事業主体
・　MITO BLUE PRIDE の開催	市 事業者
・　水戸ホーリーホックによるサッカー教室及び茨城ロボッツによるバスケットボール教室の開催（再掲）	市 事業者
・　チャレンジスポーツの開催	関係機関
・　プロスポーツチームとの交流給食の実施（再掲）	市 事業者

○　いばらき県央地域連携中枢都市圏９市町村に拠点を置くプロスポーツチーム等の選手・スタッフと触れ合い，交流できるイベントとして「いばらき県央地域スポーツフェスティバル」を巡回開催することで，地元プロスポーツチーム等を応援する機運を高め，スポーツを通じた圏域内の地域交流の活性化を推進します。また，プロスポーツチームの公式戦で対戦する，水戸市に所縁のある自治体と連携して交流を図るとともに相互に誘客を促進します。

主な取組	事業主体
・　いばらき県央地域スポーツフェスティバルの開催	市
・　プロスポーツチームを活用した地域交流の推進	市
・　アラウンド・ザ・日本三名園等の実施	市

コラム　水戸市に拠点を置くプロスポーツ

水戸市には，水戸ホーリーホック（サッカー），茨城ロボッツ（バスケットボール），マルバ水戸ＦＣ（フットサル），茨城アストロプラネッツ（野球）の４つのプロスポーツチームが存在します。

（１）水戸ホーリーホック（Ｊリーグ，ホームタウン 1997（平成９）年２月～）

1994 年に創設されたフットボールクラブ水戸を起源としています。

当初はＪＦＬのリーグに所属していましたが，1999（平成 11）年の成績がＪＦＬ正会員の中では２位という点が考慮され，2000（平成 12）年からＪリーグ（Ｊ２）への加盟が認められました。

チーム名の「ホーリーホック」は英語で「葵(あおい)」の意味で，徳川御三家の水戸藩の家紋から引用しました。

ホームタウンは，水戸市の他に，日立市，常陸太田市，高萩市，北茨城市，笠間市，ひたちなか市，常陸大宮市，那珂市，小美玉市，茨城町，大洗町，城里町，東海村，大子町の 15 自治体となっています。

チームカラーは青で，チームロゴの濃い青と葵の青の組み合わせとなっています。

（２）茨城ロボッツ（Ｂリーグ，ホームタウン 2016（平成 28）年７月～）

2013（平成 25）年９月に開幕する新リーグに参入するため，同年７月につくばロボッツとして発足し，その後 2013-14 シーズンにナショナル・バスケットボール・リーグ（ＮＢＬ）に所属したのち，2016-17 シーズンからＢリーグに所属しています。

ホームタウンは水戸市で，他にマザータウンとして那珂市，つくば市，日立市，フレンドリータウンとして神栖市，牛久市が茨城ロボッツを応援しています。

チーム名の「ロボッツ」は，つくば市が「ロボットの街」であることに由来しており，チームカラーは県章に用いられているブルーと，つくば市の名産品「福来(ふくれ)みかん」に由来するオレンジです。

チームロゴは，力強いスピード感を軸に，ロボッツ(ロボット)を表現する近未来なイメージになっています。

（３）マルバ水戸ＦＣ（Ｆリーグ，ホームタウン 2022（令和４）年３月～）

1996（平成８）年８月にフットサルの社会人チームとして設立しました。

1999（平成 11）年にできた関東フットサルリーグには当初から参入しており，2022（令和４）年シーズンから日本フットボールリーグ（Ｆリーグ）に参入しています。

チーム名の由来は，徳川御三家水戸藩の家紋である「葵（あおい）」を意味するスペイン語「malva」からとっています。

チームカラーは水色で，アダストリアみとアリーナをホームアリーナとしています。

（４）茨城アストロプラネッツ（ベースボール・チャレンジ・リーグ（ＢＣリーグ），フレンドリータウン 2023（令和５）年４月～）

2017（平成 29）年７月に球団運営会社「株式会社茨城アストロプラネッツ」が設立しました。その後社名を「株式会社茨城県民球団」に変更し，ＢＣリーグには，2019（令和元）年のシーズンから参入しました。

チーム名の「アストロ」は「天体の」，「プラネッツ」は「惑星」という意味です。

天体や惑星をイメージしたデザインに，茨城県のシンボルでもある筑波山，さらに野球のボールやバッドをエンブレムに取り入れています。

チームカラーは筑波山が「紫峰」と呼ばれていること，県の木が「梅」であることから梅紫色で，ノーブルホームスタジアム水戸などをホームスタジアムとしています。

基本施策2　　水戸黄門漫遊マラソンの推進

○　水戸黄門漫遊マラソンを開催することにより，市民の健康増進のほか，沿道でランナーたちを応援したり，ボランティアスタッフとして大会をささえる多くの市民参加を促進します。また，この取組の強化を図り，全国のランナーから選ばれる大会を目指していくとともに，水戸の魅力を全国に発信し，観光振興につなげる戦略的なイベントとして推進していきます。

主な取組	事業主体
・　水戸黄門漫遊マラソンの開催	市 関係機関
・　水戸黄門漫遊マラソン連携イベントの実施	市 関係機関
・　公認コースの更新	市

○　大会に関する情報については，専用ホームページのほか，ＳＮＳを駆使してより多くのランナーの心をつかめるよう，情報内容を充実させるとともにタイミングや頻度を工夫し，効果的な発信に努めます。

主な取組	事業主体
・　専用ホームページの内容充実	市
・　ＳＮＳを活用した情報発信の強化	市

コラム　水戸黄門漫遊マラソン

（1）目的

歴史ある観光資源や自然などの水戸の魅力を全国に発信するため，毎秋に大規模なフルマラソン大会を開催することで多くの人々を水戸に集め，参加者のスポーツを通した健康増進，体力づくりに寄与すること及び新たなにぎわいや交流を創出することにより，まちなかをはじめとする地域経済の活性化を図ることを目的としています。

（2）参加者

全ての都道府県からこの日のため水戸に集まった 10,000 人を超えるランナーが市内を駆け巡り（するスポーツ），多くの市民がランナーの雄姿に声援を送ります（みるスポーツ）。

また，大会の開催に当たっては，水戸市陸上競技協会，高校生陸上部，医療従事者，一般ボランティア，ランナー応援隊など 6,000 人以上の関係者に御協力（ささえるスポーツ）をいただいております。

（３）現状

2016（平成 28）年に第１回大会を開催して以降，途中に新型コロナウイルス感染症の影響による中止やオンライン開催を含みますが，2024（令和６）年秋で第９回大会を迎えます。

毎年 10 月最終日曜日に開催していることから，コース上の店舗の皆さまや交通規制の影響を受ける市民の皆さまに対しましても，大会の認知が高まり，応援していただける雰囲気が醸成されてまいりました。

（４）評価と今後

全ての出場者がエントリーに利用するWeb サイトである「ランネット」による大会の評価につきましては，7,000 人以上がエントリーする大規模フルマラソンの部において，高い評価を受けております。

最新の 2023 年の評価では，関東で１位の評価点（84.2 点）をいただいております（2024（令和６）年３月４日現在）。この評価は，もちろん東京マラソンや横浜マラソンよりも高い得点であり，大変喜ばしいことです。

評価と共に寄せられたコメントによると，「沿道の声援が途切れず温かい」，「ボランティアスタッフが素晴らしい」，「トンネル内の高校生の応援がやみつきになる」など，水戸市民のおもてなしの力が要因となっています。

また，2025（令和７）年には，第 10 回大会を迎えます。この大会は，記念大会となるよう様々なプランを検討しているところです。

今後とも，全国のランナー及び市民ランナーから選ばれ続ける大会として，常に改善の意識を持った大会運営に努めてまいりますので，それぞれの立場での皆さまの御協力をお願いいたします。

基本施策3　　全国大会等の誘致･開催支援

○　市民がトップレベルのスポーツにふれることのできる機会の拡充に向け，市スポーツ振興協会・観光課・水戸観光コンベンション協会と連携して各種大会開催補助制度の周知及び充実を図り，プロスポーツやトップアスリートが参加する国際・全国規模の大会やスポーツイベントの誘致に努めるとともに，水戸黄門漫遊マラソンを開催するなど，水戸のアイデンティティの形成・増強や，交流人口の増加，地域経済の活性化に資するスポーツコンベンションを推進します。

主な取組	事業主体
・　大規模大会･スポーツコンベンション等の誘致活動の推進	市 関係機関
・　大規模大会・スポーツコンベンション等の開催支援	市 関係機関

○　スポーツボランティアの確保・育成を図るため，市スポーツ振興協会と連携して「スポーツボランティアＭＩＴＯ」の制度や活動の周知を行うとともに，水戸黄門漫遊マラソンをはじめとする大規模なスポーツイベント，スポーツ教室や地域のスポーツ行事など，幅広い事業での活用を図り，定期的な活動の場の確保に努めます。

主な取組	事業主体
・　スポーツボランティアの充実	市 関係機関

○　ホームページ等を活用しながら，大会の規模や競技レベルにかかわらず，より多くのスポーツイベント情報の集約及び周知に努め，一人でも多くの市民に水戸のアイデンティティをもって会場に足を運んでもらえるよう努めます。

主な取組	事業主体
・　ホームページ等を活用したスポーツイベント等の情報発信	市 関係機関

基本施策４　　伝統スポーツへの支援

○　伝統文化としての武道や古式泳法等を継承していくための活動を支援するとともに，水戸ならではの伝統スポーツに関する啓発活動や情報の発信に努めます。

主な取組	事業主体
・　伝統スポーツ少年団の活動支援	市 関係団体
・　水府流（古式泳法）水泳教室の開催	関係機関 関係団体
・　伝統スポーツに関する情報の発信	市 関係団体

コラム　水戸の伝統スポーツ

江戸時代の頃，現在の水戸市域は，徳川御三家の水戸藩が治めていました。

第９代の水戸藩主である徳川斉昭によって開設された弘道館では，学問と武芸の両方が重視され，武芸では剣術・槍術・柔術・兵学・鉄砲・馬術・水泳など多彩な科目が教えられていました。

ここでは，水戸市指定の無形文化財である４件について紹介します。

○　水府流

水府流水術は，那珂川を臨む水戸に古くから発達した武術です。泳法は「のし泳ぎ」を基本としていますが，上町流は元禄年間に島村孫衛門正広が指南し，下町流は小松郡蔵，荷見守壮が指導していました。斉昭が弘道館を開くと，はじめて水府流水術と命名し，武術の１科目として奨励しました。泳法は横体のほか平体・立体・潜水・浮身などあり，明治以降も広く普及しました。現在は，1970（昭和 45）年に設立された水府流水術協会によって，保存・伝承されています。

○　田谷の棒術

田谷の棒術の流祖は，関が原の合戦に出陣した佐々木哲斎徳久で，田谷には 1783（天明３）年に伝えられたといわれています。天明の飢饉を契機に，那珂川中下流の農・漁民の自衛武術として広がり，大洗町・ひたちなか市・水戸市域に広く伝承されましたが，現在はひたちなか市平磯と田谷の２地区でしかみられません。伝承は全て口述で，約 20 種類の型が伝承されています。５尺５寸の丸棒で，いかに太刀に対抗するかを習得することを主眼としています。入門者は大巻物に記名・血判をし，術の習得者には「判消し」「免許」を与える儀式もあります。

現在では，田谷の棒術保存会（杖友会）によって伝承され，また，国田義務教育学校で郷土学習の一環として棒術の指導を行うなど後継者の育成にも努めています。

○　北辰一刀流

北辰一刀流は，千葉周作成政が，父成勝の北辰夢想流(ほくしんむそうりゅう)と浅利義信からの小野派一刀流を合わせて起こしたものです。

千葉周作は，1841（天保 12）年に，弘道館仮開館の際に水戸藩第９代藩主徳川斉昭に招かれ水戸藩に仕え，水戸に北辰一刀流が伝えられることとなりました。

周作の門弟の一人，小澤寅吉は，江戸にあった周作の道場玄武館にも通ったとされ，免許皆伝となりました。1872（明治５）年の弘道館閉館後，東武館を開設し，衰退の一途をたどっていた武芸の復興に尽力しました。

北辰一刀流の伝書としては，1915（大正４）年に刊行された「剣法秘訣(けんぽうひけつ)」が存在していますが，技そのものは口述で伝承されています。技として「一つ勝」「二本目」等 43 の形などが伝えられています。現在は，水戸東武館古武道保存会によって伝承され，日々技の研究・研鑽に努めています。

○　新田宮流抜刀術

新田宮流抜刀術は，水戸藩第２代藩主徳川光圀を警護し，剣術家として高い名声を得た水戸藩士和田平助正勝が大成した水戸藩独特の居合術の流派です。常に先手を打って相手を倒す実践性が特徴であり，光圀も習得したといわれ，藩外不出の剣術として，弘道館においても教授されました。

現在，水戸東武館古武道保存会の２名がその技を保持し，水戸藩において創始され，今日まで継承されている唯一の武芸として，貴重な価値を有します。

第5章　推進体制と進行管理

1　各推進主体の役割

本計画を推進していくためには，市民，スポーツ関連民間事業者，スポーツ関連団体及び水戸市の各主体の役割を明確にし，相互の連携を図りながら一体となって取り組んでいく必要があります。

（１）市民（地域）の役割

- 健康や体力づくりに関心をもち，様々なスポーツ活動への積極的な参加に努めます。
- 地域コミュニティを活性化し，地域の一体感や活力を醸成するため，スポーツに関する地域行事への参加とともに，スポーツボランティアなどの「ささえる」活動等への積極的な参加に努めます。

（２）スポーツ関連民間事業者の役割

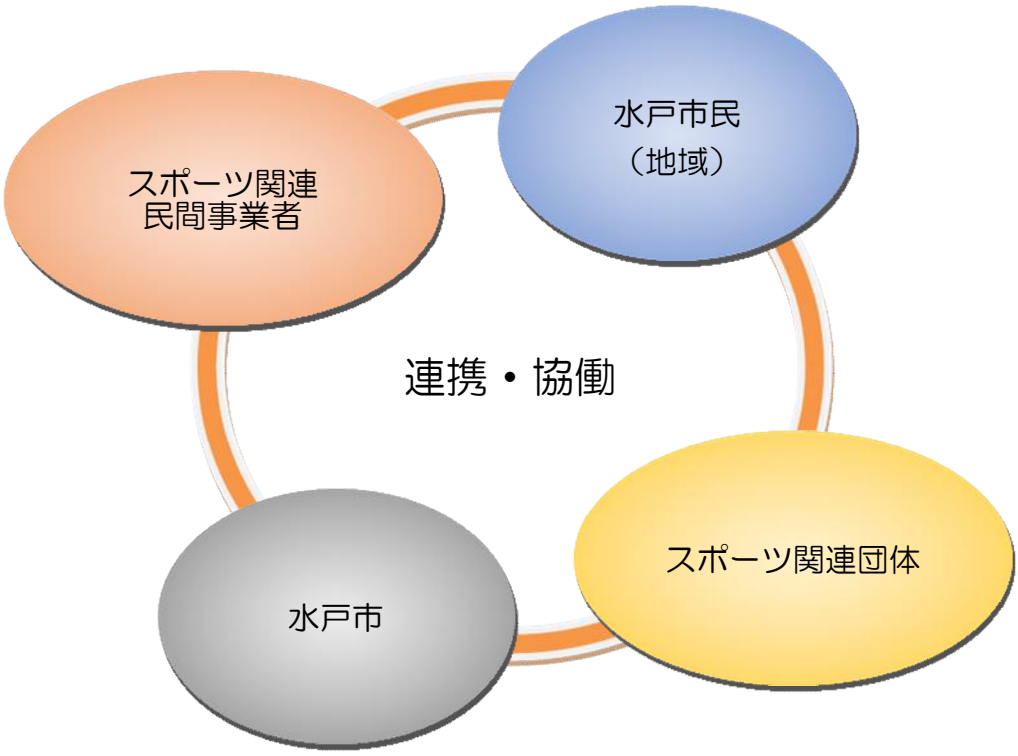
- スポーツ関連民間事業者は，スポーツが市民生活及び地域社会において果たす役割の重要性に鑑みて，スポーツの推進に積極的な役割を果たすよう努めます。
- 事業者相互の連携を図りながら，スポーツ産業の振興に努めます。
- コーチング技術や人格に優れた競技スポーツ指導者の確保・育成を図り，競技力向上を目指す市民がレベルの高い指導を受けられる機会の充実に努めます。

（３）スポーツ関連団体の役割

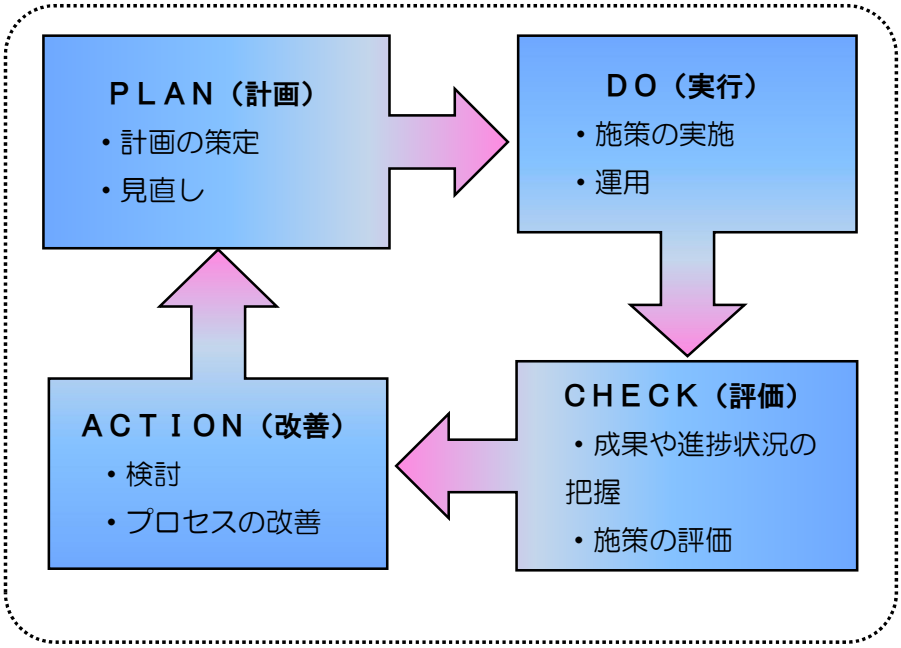
- プロスポーツチームや競技団体は，地域に根差した活動を通して競技レベルの向上とともに，指導者の確保・育成に努めます。
- 競技団体は，大会の運営や競技種目の普及，スポーツ・グループへの支援など，市民のスポーツ活動の育成指導を積極的に推進します。
- 水戸市スポーツ振興協会は，公共スポーツ施設の指定管理者として，施設・設備等の適正な維持管理や有効活用に取り組むとともに，スポーツの一層の振興に向けて，市民を対象としたスポーツ教室や全国規模の大会をはじめとする各種大会の開催，体力づくりや仲間づくりに資する事業やスポーツを楽しむグループの育成等，各種事業を積極的，継続的に推進していきます。また，市民がトップレベルのスポーツや競技にふれることのできる機会の拡充に向け，プロスポーツや全国大会等の大規模大会の開催・誘致を積極的に展開するとともに，事業の円滑な推進に向けたスポーツボランティアの育成と活用を図ります。

（４）水戸市の役割

- 国，県，近隣市町村や庁内各部局との連携によりスポーツ施策の総合的な取組を推進します。
- スポーツ情報の収集，分析，提供を行います。
- スポーツ関連団体，民間事業者，市民（地域）との連絡調整を密にし，市民との協働による施策を展開します。



２　進行管理

本計画の推進に当たっては，市民や水戸市スポーツ推進審議会における意見等を踏まえながら，Plan（計画の策定・見直し），Do（施策の実施・運用），Check（施策の評価），Action（検討・改善）によるＰＤＣＡサイクルの手法に基づき進行管理を行っていくこととします。

基本計画のPDCAサイクル